

能登支援 活動報告

私が代表理事をしている一般社団法人 ART Along での、能登支援の動きをご報告します。京都の臨床美術士に能登出身者もいて、なんといっても能登は近いので、発生後からずっと状況の把握に努めていました。

支援の遅れがあまりにも酷いので、5月1、2日にボランティアに行きました。

私は輪島を拠点に活動している公益社団法人 共生地域創造財団の受け入れで現地入りしました。財団を通じて地元で活動している公民館長や、イベント企画をしている方と出会うことができました。

まだ水道や電気のない地域もあり、ほとんど地震の発生直後のまま変わらない町の景色に、能登の方々はかなり辛い気持ちも募っているようです。しかし、何か元気になることもやっていきたいと、地元の若い方が中心になって祭りやイベントも実施されています。

私が訪問したところは、仮設住宅のある岩井戸公民館（能登町）でのサロンと、輪島で手作りの子どもの向けのイベントを主催された若い仲間の皆さんです。

いずれも臨床美術に関心を持って、やってみたいと話していただきました。

公民館では、仮設にはいろいろな地域から人が集まるため、コミュニティの関係づくりにアートが役立つのではないかと期待されています。

子どもの分野では今度は親もリラックスできる場所づくりに、親子でのアートの時間を設けたいと仰ったので、認知症の人と家族の参加する講座のことを紹介しながら、親子でのセッションのイメージを膨らませることができました。

そして5月29日に能登町の岩井戸公民館にて、初回のセッション「いろいろな線と色で遊ぼう」を行いました。

メインはフルイで、サブに石川県の臨床美術士で法人メンバーの野口雅恵さん、七尾市の荒牧裕子さんに入ってもらいました。

地域から7名、公民館1名、財団1名、北海道浦川からボランティア2名、他の公民館職員2名、合計13名の参加でした。

まず地域の方々の元気さ、仲の良さに驚かされました。とても熱心に話を聞いて取り組んでくださいました。

「私ね、1月1日の気持ちを描いたわ。もうむちゃくちゃやったし！」

「最後にね、ここが物足りんと思って線を入れてみたのよ。」

気さくにスタッフにも話しかけて下さり、とても賑やかな時間となりました。鑑賞会では前に乗り出すように見て、お互いの表現に心から驚き、拍手を送り合うことができました。

終了後には館長さん手作りのカレーの振る舞いを受けて、今後のことを相談できました。

「能登町の岩井戸には他に無い、谷間に作られた棚田の風景がある。それをもっと発信したい。」

地震からの復興はもちろんですが、それだけでなく地域の魅力を積極的に発信して、人の集まる地域づくりをしていきたいと地元愛の溢れる思いに触れて感動しました。

そして今後のサロンでも毎月第4木曜日に、臨床美術を定期開催していただけることになりました。

能登地震の復興は驚くほど遅れています。

しかしそれでも能登の景色は美しく、食べ物は美味しく、とても魅力のある地域なのだと、私は行って見て感じることができました。

地元の方々は能登を愛しておられ、ずっと住み続けたいと願っておられます。

そして熱心に活動される方々にも出会うことができました。

今後も ART Along では能登支援を位置付けて、少しでも皆さんの力になれるように、息の長い応援をしていきたいと考えています。

石川県や近隣の臨床美術士の皆さんと協力して活動させてください。

活動内容は随時、日本臨床美術協会にご報告いたします。

全国の臨床美術士の皆さまも応援よろしく願いいたします。

一般社団法人 ART Along

フルイミエコ